

⑧気持ちをわかって働きかける(高等学校)

『相手の気持ちに共感して働きかける』

1. 展開案

過程	学習活動	教師のはたらきかけ	留意すること
わかる	1. 本時の目標を知る。	<p>○今日は相手の気持ちをわかって働きかけることについて学習します。みんなの前で発表してもらったり、練習したりすることがありますが、ふざけたりはずかしがったりせずに積極的に取り組みましょう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ふざけない ・恥ずかしがらない </div> <p>○何かに失敗して落ち込んでいるとき、気持ちをわかってもらえると、気持ちが落ち着いて、ちょっと元気になります。また、嬉しいことがあったとき、一緒に喜んでもらえると、一層嬉しくなります。このように相手の気持ちを理解することを「共感」と言います。共感してもらうと、感情や行動をプラスの方向に変わることがあります。</p> <p>○どんな時に自分の気持ちが分かってもらえたと感じますか。</p> <p>○言葉を掛けられなくても、そばにいてくれるだけで「分かってもらえた」という気持ちになることもあります。このように「共感」には「言葉による共感」と「言葉を使わない共感」の2つがあります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールが必要な理由を添えて説明する。 ・「共感」について説明する。 ・「共感」には2種類あることに気付かせる。
相手の気持ちに共感して働きかける練習をしよう			
	2. ワークシートに取り組むことにより、共感するポイント(非言語的な共感, 言語的な共感)について知る。	<p>○初めに、言葉を使わない共感について考えます。ワークシートの演習1を見てください。各項目にある非言語の相手の様子(声, 表情, 姿勢など)で、親しみを感じるものをそれぞれ選び○を付けましょう。</p> <p>○確認します。親しみを感じる声のトーンは、どれにあてはまりますか。(以下同様に確認する。)</p> <p>○これが「言葉を使わない共感(非言語的な共感)の方法」です。</p> <p>○次は「言葉による共感(言語的共感)」です。演習2の文章を読んで、その言葉に隠された気持ちを想像しながら書きましょう。</p> <p>○確認します。(1)にはどんな気持ちが隠されていると思いますか。(以下同様に確認する。)</p> <p>○このように、言葉に隠された気持ちを感じ取ることが「共感」につながります。</p> <p>○共感するポイントをまとめましょう。</p> <p>○まず、相手をよく観察します。相手の話や表情などから、共感する言葉を伝えます。</p>	<p>※ワークシート参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させる。 ・挙手で人数を確認する。 ・ワークシートに記入させる。 ・教師が(1)～(10)の文章を読み上げて考えさせてもよい。 ・生徒を指名して答えさせてもよい。 ・時と場合や声の調子によって、言葉に隠された気持ちは異なってくることに気付かせる。

		<p>また、相手がどのように感じたり考えたりしているかをくみ取ることで、気持ちを分かって働きかけることができます。</p> <p>【気持ちをわかって働きかけるポイント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を観察する。 ・共感する言葉を伝える。 ・相手の気持ちを分かって行動する。 	
<p>や っ て み る</p>	<p>3. 共感するポイントに気を付けながら練習①をする。</p> <p>4. 練習①を振り返る。</p>	<p>○まず、ワークシートの練習①を読んで、「生徒Aの行動」と「声の掛け方」を考えましょう。ワークシートの『声かけのヒント』を参考にしてください。</p> <p>○では練習をします。3人グループで「おばあさん役」「生徒役」「観察役」を決めてください。役割が決まったら、共感するポイントに気を付けながら練習をしましょう。</p> <p>○1回の練習が終わったら、「観察役」はよかったところを伝えて下さい。</p> <p>○役割を交替しながら、全ての役割を練習してください。</p> <p>○全ての役割の練習が終わったら、ワークシートに自己評価をしてください。</p> <p>○3つのポイント以外でよかったところグループで出し合って、ワークシートに記入しましょう。また、「おばあさん役」「生徒役」を練習したときの気持ちも出し合い、ワークシートに記入して下さい。</p> <p>○グループで出し合ったことを発表してもらいましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入させる。 ・「生徒役」は、非言語(相手に近づく、笑顔で、顔を見て、聞こえる声で声を掛ける)の部分にも留意することを伝える。 ・「観察役」はポイントを押さえて練習ができているか、また、挨拶などできっかけを作り、伝えたいことを優しい言葉で言っているか観察するよう促す。 ・ポイントを自己評価させる。 ・数グループに発表させ、よかったところを褒める。 ・時間があれば、グループで他の場面を想定させ、練習させてもよい。
<p>ふ り か え る</p>	<p>5. 学習のまとめをする。</p>	<p>○今日は相手の気持ちに共感する練習をしました。今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>○「共感」には言語と、非言語によるものがありました。どんなにすばらしい言葉をかけても、非言語の部分で共感していなかったら、相手は分かってもらえたという気持ちにはなれないかもしれません。言葉と行動(態度)を一致させることが大切です。</p> <p>○これから、学校や家庭などいろいろな生活の場面で、共感するポイントを活用してみよう。多くの人が共感するポイントを活用することで、よりよい人間関係を築くことができます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに振り返りを記入させる。 ・言語と非言語両方による「共感」が大切だということに気付かせる。 ・共感するポイントを意識して、いろんな場面で活用するよう働きかける。

2. モデリングシナリオ

「⑧気持ちをわかって働きかける」の活動プログラムは、その他のスキルとはアプローチの仕方が違うため、モデリングはありません。

3. 活用場面のアレンジ例

「⑧気持ちをわかって働きかける」のスキルをどのような場面で用いるか、具体的な学校生活の場面をまとめました。ソーシャルスキル・トレーニングを授業で行う際、モデリングやロールプレイのシナリオをアレンジするときの参考にしてください。また、授業後に、スキルの定着化のための働きかけにご利用ください。

友達とけんかして悲しそうな友達へ
友達の中に入れない友達へ
友達と仲直りして嬉しそうな友たちへ
授業でうまくいなくて落ち込んでいる友達へ
授業で活躍をして嬉しそうな友達へ
行事でうまくいなくて悲しそうな友達へ
行事で活躍して嬉しそうな友達へ
テストで失敗して悲しそうな友達へ
テストでうまくいって嬉しそうな友達へ
作業が遅れて困っている友達へ
忘れ物をして困っている友達へ
泣いている友達へ
望みが叶って喜んでいる友達へ
いつもと違ってなんとなく元気がないと思う友達へ
いいことがあってにこにこしている友達へ
体調の悪そうな友達へ
心配事を抱えている友達へ
もうすぐ試合や発表会があると言っている友達へ
部活動でミスをして落ち込んでいる友達へ
部活動でうまくできて嬉しそうな友達へ